

環境について自分にできることを考える子

東近江市立愛東北小学校

地域の豊かな自然を生かし、多様な体験活動を取り入れた環境教育を展開し、あいとうエコプラザ菜の花館との連携など地域・家庭への関わりを深め、実践的な活動へと取り組みを進めている。

1 学校環境

本校は、鈴鹿の山々を背にし、田畑や果樹園の広がる農村地帯に位置する。近くに湖東三山の一つ「百済寺」があり、歴史と文化、豊かな自然に囲まれた学校である。

地域の産業は兼業農家が多く、米・野菜の他に、地域の地形や気候を生かしたメロンやブドウ、梨等の果樹栽培が盛んに行われている。

菜の花エコプロジェクトが全国的に有名になり、環境に配慮しながら安全で安心な農作物を作る「環境こだわり農業」の推進に力が注がれている。現在では、あいとうエコプラザ「菜の花館」を拠点として資源循環型の地域づくりが活発に進められている。

2 実践事例

(1) 恵美須溜での自然散策と散乱ごみの回収活動

5月30日には、全校児童が縦割りの班で校区にある恵美須溜まで歩く「はとこの遠足」を実施した。



【恵美須溜でのクリーン活動】

学校から約2km離れた恵美須溜の畔で、異年齢交流や環境に関する学習（ネイチャークイズ）、清掃活動（散乱ごみ回収活動）を行った。

ネイチャークイズは、縦割り班ごとに恵美須溜の周りを歩きながら、「花の名前」、「鳥の声」等、示された自然に関する問題を解いていくゲームである。子ども達は、ヨシ地や樹木の広がる親水域の自然を楽しんで活動していた。

散乱ごみの回収活動の活動は、恵美須溜の喫

水域を周回しながら、釣り糸や釣り針、ビニル袋などを回収するもので、「子どもたちが掃除をするようになってから冬にやってくる水鳥が釣り糸や釣り針で命を落とすことが少なくなった。」との、地域の方の感謝の声にも支えられて、意欲的に取り組んでいる。

秋から冬になると渡り鳥が恵美須溜に飛来する。恵美須溜改修時に水鳥が安心して棲息できるよう溜の中にヨシ地を造ったり、飛来しているハシビロガモやキンクロハジロ、コガモ、アオサギなど特徴的な水鳥を観察したり水鳥の特徴などについて学習したりしている。数年前には、釣り糸を巻き付けたオオバンを見つけ、子どもたちは心ない人たちの行いに悲しい気持ちや環境を守る大切さを感じた。このことを3学期の活動に生かしていきたい。

(2) 4年「菜の花エコプロジェクト」に学ぶ

あいとうエコプラザ「菜の花館」の出前授業を活用し、4年生では「資源のリサイクル」について、体験的な学習をしている。

愛東では菜の花をたくさん栽培し、菜種油を搾油、使用後の天ぷら油を回収し、そこからディーゼル燃料のBDFを精製している。BDF精製は理科室でも実験できるため、子どもたちは薬品の混合やキャンドルづくりなどを行った。自分たちが作ったBDFでカートを早速動かし、確かに精製できたことを実感できた。また、菜の花やひまわりを栽培して二酸化炭素を吸収すること、廃物となった油を再生することが、地球温暖化防止に役立っていることが理解できた。4年生では、廃食油の回収を呼びかけたり、自分たちでひまわりを栽培し、その種から搾油したりと、活動の日常化に結びついている。

(3) 6年「大気の調査とケナフ栽培」

6年生では、8年間続くケナフ栽培を今年度も行った。本校では、ケナフの栽培を通して地球規模の環境問題について考える活動を総合的な学習の時間の大きな柱にして学習している。地球温暖化などの原因となっている大気の変化について、ケナフの様子から調査し分析したり、空気の汚れに弱いとされるウメノキゴケの分布や松の葉の気孔について調べた。また、気体検知管を使って、自然の中の空気と二酸化炭素濃度が高いと思われる車の排気ガスなど比較しながら調査することも行った。学習してまとめたことは11月の環境フォーラム参観の場で地域や保護者の方に発表した。また、4月から大気の浄化に寄与する自分たちの手で育てたケナフは、ケナフの繊維質を活かし、12月には親子で紙すき活動につないでいる。このときに自分たちがすいたこの紙は世界に一枚だけの紙としての思い出とともに、卒業証書となっていく。

(4) エコ委員会(児童会)の取り組み

エコ委員会では、全校児童に節電・節水などをポスターを作って呼びかけたり、エコキャップやアルミ缶回収活動、菜の花館と連携して廃油回収活動を行ったりしている。昇降口の掲示板には毎月、回収できたペットボトルキャップの重さを表示して全校児童へのお知らせを行っている。また、毎月の「命かがやけ!集会」では毎回エコ活動への協力を呼びかけている。

今年度も「楽しく広げよう エコ活動」をテーマに掲げ、昨年度考えた『エコアラ』というオリジナルのキャラクターを使い、児童や保護者にエコ活動に参加してもらえるようよびかけている。各学級にもエコ宣言作成を呼びかけ、「楽しみながらできるエコ活動」を全校でも地域でも意識してもらいながら取り組んでいる。



【お知らせ掲示板】



(5) エコクラブ活動交流の発表

琵琶湖博物館主催の淡海エコクラブ活動交流会に有志の児童で参加した。今年度全校で取り組んできたことをまとめて発表したり、本校の



【ケナフの生長劇の発表】

特色あるケナフ栽培を劇にして発表したりして、会場の参加者に楽しく見てもらうことができた。また、他校の発表を聞くことで、本校でできるこれからのエコ活動について考えたり、もっとよりよくしていくために工夫を加えていくことができる改良できるところについて話したりできた。参加したことを命輝け集会で全校児童に伝え、次につないでいく役割も果たした。

3 成果と課題

4～5月頃には活動が始動し始めたところなので教師主導で進めることも多かったが、活動を続けていくうちに子どもたちの自発的な活動へと変わっていった。また、子ども自身が相手に伝え、表現する力を発揮する場にも積極的な活動につながっていった。

また、21年度からエコスクールに登録し活動を進めていることは、子どもたちの生活の中に広がりを見せてくるようになってきているので、これからも学校生活や家庭生活の中で実践できるように、学びの深化をめざすとともに、改善や見直しを図っていきたい。

「緑あふれる愛北小」のキャッチフレーズと下のシンボルマークは全校で、地域にも協力を求めながら活動を進めていくのに、気運を高める効果があった。しかし、児童が日常的に自分たちの生活を見直そうとしたり、学習や活動を通して学んだことを活かしていけるよう、今後もPDCAサイクルを意識して活動を進めていきたい。



学 校 名	東近江市立愛東北小学校
住 所	東近江市百済寺本町1399番地
電話番号	0749-46-0588
E-mail	aikitasho@higashiomi.ed.jp